

2026年4月1日

留学報告書

南山大学長 殿

所 属 総合政策学部総合政策学科

職氏名 教授 三輪まどか

留学先：九州大学法学府・法学研究院

期 間：2025年4月1日～2026年3月31日

目 的：高齢者・障害者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究

貴重な1年間という時間をいただき、本留学では、次に掲げる2つの研究課題に取り組んだ。第1に、2025年度に最終年度を迎える科学研究費基盤研究(B)「ソーシャルワークの法理論の構築——支援関係を軸とした社会保障法学の再構成」の分担研究のフォローアップのための現地調査と報告書・研究成果のとりまとめをおこなうことである。第2に、現在、厚生労働省内の検討会である「成年後見制度利用促進専門家会議」(以下「専門家会議」)において議論されている、日本における成年後見制度の関連法の改正を踏まえ、新たな高齢者・障害者の権利擁護のあり方について、現場の実践の状況を学びつつ、研究を進めることである。

この2つの研究課題を遂行するにあたり、以下4つを中心に研究を進めた。第1に、毎月九州大学において開催されている社会法研究会に参加し、新たな知見を得るとともに、報告の機会を得ることができた。第2に、科学研究費基盤研究(B)の研究チームの研究会に参加し、2回の報告の機会を得、貴重なご指導をいただいた。第3に、科学研究費基盤研究(B)等を用いて、2025年8月26日～9月3日まで、英国において、フォローアップのためのインタビュー調査のほか、保護裁判所の見学・傍聴を実施することができた。第4に、ソーシャルワークの現場を知るために、社会福祉士の一般養成校(通信)で学び、現場での240時間の実習の機会を得た。

これらの研究活動および実践を通じ、第1の研究課題を達成すべく、編著書1冊、著書の改訂2冊(うち1冊は編集も担当)、学術論文2本(うち1本は6月刊行予定)、学会発表1回、研究会発表3回という成果を得ることができた。第2の研究課題について、当初、社会福祉士に対するインタビューをおこなう予定であったが、受入教員とも相談し、社会福祉士養成校(通信課程)に入学し、意思決定支援と重層的支援体制整備事業に力点を置いた

実習に参加し、ソーシャルワーク実践について学ぶこととした。実習は、2つの事業所において、障害者・障害児福祉と意思決定支援、高齢者福祉・地域福祉と重層的支援体制整備事業の現場に立たせていただいた。これらのソーシャルワーク実践においては、「問題点を発見し、なんとかして解決したい気持ちが強い」という自己覚知と、対峙するのは人間であるゆえ、解決できない問題が存在し、そのソーシャルワーク実践として「そっと見守り、つながった糸を切らないよう関わり続けること」の大切さを教えていただいた。インタビューではわからないソーシャルワーク実践を体感できたことは、今後の研究活動におけるより大きな糧となった。

1年間の留学により、これまで以上の研究成果を得、実践につながるような研究の広がり
の契機を得ることができた実感している。最後に、こうした機会を与えてくださった、総合政策学部の教職員の皆さま、南山大学の教職員の皆さま、また、受入れをしてくださった九州大学法学府・法学研究院教授丸谷浩介先生、九州大学の教職員の皆さま、貴重なご指導をいただきました社会法研究会の先生方に、この場をお借りして、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

【研究成果】

○著書

1. 本沢巳代子＝新田秀樹『トピック社会保障法 [2025 第 19 版]』(信山社／不磨書房、2025 年 4 月)「9 章 社会福祉」を一部改訂
2. 三輪まどか＝廣田久美子『入門社会保障法』(法律文化社、2025 年 6 月)「3 章 子どもが生まれる」、「4 章 子どもが育つ・子どもを育てる」、「11 章 年老いて地域で暮らす」、「14 章 時代・社会の変化と社会保障法」の執筆と編集を担当
3. 増田幸弘＝三輪まどか＝根岸忠『変わる福祉社会の論点 [第 4 版]』(信山社、2025 年 10 月)以下一部改訂「はしがき」、「I-2 国としての『もしものとき』の備え」、「IV-2 自分らしい最期の迎え方」、「V-2 日常の／非日常の“Stay (at) home”」、以下新たに執筆「II-2 同じ氏が家族の証なの?」、「V インTRODクション」および同書編集を担当

○学術論文

1. 「英国における『自由剥奪（保護）セーフガード』と BIA の役割」アカデミア社会科学編第 30 号 (2026 年 1 月) 19-30 頁
2. 「養護者による高齢者虐待をめぐる法的問題－面会制限に着目して－」アカデミア社会科学編 31 号 (2026 年 6 月予定)

○学会発表

1. 「終末期での救急搬送における法的問題－本人同意のあり方に着目して」第 1 回日本搬送学会学術集会記念大会、2025 年 9 月、南山大学

○研究会報告

1. 「訪英報告」第40回イギリス社会保障法研究会、2025年9月、九州大学日本橋サテライト
2. 「養護者による高齢者虐待をめぐる法的問題－面会制限に着目して－」第558回社会法研究会、2026年2月、九州大学西新プラザ
3. 「英国における『自由剥奪（保護）セーフガード』とBIAの役割」第41回イギリス社会保障法研究会、2026年3月、立正大学品川キャンパス

○新聞・メディア報道

1. 北海道新聞「コロナ5類移行2年 入院面会、制限緩和の動き リハビリ意欲増進 感染警戒の病院も」2025年9月21日付
2. 広報せと令和8年1月号「令和7年度公益功労者と市政功労者が決まりました」2026年1月

以上